

自己評価報告書(最終報告)

報告者

学校・学級経営コース
／芝山 明義

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

高度学校教育実践専攻(教職大学院)の専任教員として、「学校や地域において指導的役割を遂行できるリーダー教員の養成」との教職大学院の現職教員を対象とした人材養成の目的を果たすため、専攻の特色ある教育課程の意義を最大限発揮すべく努めたい。また、教師志望の院生を対象にもつ授業並びに学部学生を対象とする授業では、これまでの成果と課題をもとに、現場の教育実践に資する情報や教育課題への取組を促す話題の提供、そのための資料の提示と授業方法等の工夫をおこないたい。

2. 点検・評価

主として、所属している高度学校教育実践専攻(教職大学院)において、専攻・コースの教員の方々と協力しながら、1年次生の学年担当(コラボレーションオフィス・コーディネーター)として、とくに実習科目に接続する関連科目等においてこれまでの成果を継承しつつ、新たな内容や方法を取り入れる等の工夫をした教育指導に積極的に取り組んだ。専門科目においてもこれまでの成果と課題をふまえて工夫・改善に取り組み、設定された目標を概ね達成した。また、コーディネーター及び実習担当教員として、2年次生の授業についても、専攻・コースの教員の方々と並びに実習校の教職員の方々と協力しながら、主として各実習科目に関してその特色を生かした内容と方法の工夫・改善を検討・実践し、設定された目標を達成した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①上記Ⅰ-1. と合わせ、所属専攻・コースでは複数担当の授業が多いため、教員間の連携を図る。
- ②所属専攻・コースの大学院生の教育研究環境整備を、専攻・コースの教員と協力しておこなう。
- ③専攻・コースにかかわらず、学部生、院生の要望等の相談に随時応じ、学部生、長期履修生と学卒等の院生には、将来教員・社会人として必要とされる日常の生活態度等を身につけられるよう指導・助言していきたい。

2. 点検・評価

①所属専攻・コースにおける会議や打合せに積極的に出席し、教員間の連携を図った。②所属専攻・コースの大学院生に係る教育研究環境整備を、専攻・コースの教員の方々ならびにコラボレーションオフィスのスタッフの方々と協力しておこない、特に教育研究環境整備として適宜、必要な機器等の配備や点検保守を、専攻・コースとともに中心的に担当した。専攻においては、とくに1年次生の学年担当として、2年次の実習科目に接続する1年次の関連科目等に係る庶務に関して、また経理担当として、大学院生の要望等にできる限り迅速に対応した。③所属専攻・コースの院生を中心に学生の生活状況等について、教職員の方々との情報交換等を綿密におこなった。また、専攻・コースにかかわらず、学部生、院生等学生の個別の相談や要望等に対応して、助言・支援等を積極的におこなった。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

①これまでの研究テーマである学校と家庭・地域の連携と人権教育の課題に関する考察ならびに教育達成と自己概念に関する検討、また、現職教育についての考察をさらに進め、まとめるよう努める。
②科学研究費補助金に関して、研究分担者としてのこれまでの研究成果を論文等にまとめることを目指す。また、新規分については、その審査結果により、次年度の科学研究費補助金に積極的に申請し、学外資金の調達に努める。

2. 点検・評価

本学教職大学院と鈴鹿市教育委員会との市大連携に係る共同研究の成果に関して、本年度の中間報告を論文として公表した。平成19～21年度科研費補助金に係る共同研究(代表:岩永定教授)の研究成果を論文として公表した。平成20～22年度科研費補助金に係る共同研究プロジェクト(代表:志水宏吉大阪大学大学院教授)の研究成果を報告書としてまとめるとともに、学術書の編纂書論文としてまとめ、公表した。また、平成22年度の文部科学省の受託研究(代表:志水宏吉大阪大学大学院教授)の研究分担者として進めた調査研究の成果を報告書としてまとめた。さらに、これまでの研究テーマである学校と家庭・地域の連携と人権教育の課題ならびに教育達成と自己概念に関する研究を発展させるとともに、教職大学院における教育研究との関連で新しい資料を加えて、学校文化・教師文化に関する研究に精力的に取り組んだ。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

学内の各種委員会委員等の担当において、当該委員等としての職務を積極的に果たす。各種委員会等に関して、教職大学院コラボレーションオフィス・コーディネーター、鳴門教育大学創立30周年記念事業委員会専門委員として、本学の運営に貢献する。
また、教育部会議、専攻会議ならびにコース会議等に出席・参画し、大学の構成員として本学の運営に貢献する。

2. 点検・評価

各種委員会委員として、教育部選出の鳴門教育大学創立30周年記念事業委員会専門委員(大学公開委員会委員)として、その職責を積極的に果たした(この点、諸般の事情から30周年記念大学公開事業が取り止めになったことは残念であった)。また、教職大学院の運営においては、コラボレーションオフィス・コーディネーターの1年次生担当(代表)、高度学校教育実践専攻改善検討委員会委員、経理担当及び広報担当として、他のコーディネーター、委員ならびに担当者の方々と協力しながら、その務めを積極的に果たした。とくに、専攻とコースの会計・経理については、各所属の教員の方々と協力し、適正で効率的な財務処理をおこなった。さらに、改善検討委員会や専攻会議等においては、平成25年度からの組織改編等に向けて、専攻・コースの組織体制の検討、カリキュラムの改編の協議等に積極的に参画した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

附属校園とともに学校や教育委員会等からの依頼・要請等に応じるなど, 大学と地域・社会との交流・連携を積極的におこない, 地域・社会に貢献していくよう努める。(附属学校・社会連携・国際交流)

2. 点検・評価

本年度も継続して教育支援講師・アドバイザーに登録し, 社会・地域との連携を進めるべく努めた。また, 研究テーマである人権教育に関連して, 本年度も継続して鳴門市社会人権教育講師の委嘱を受けた。さらに, 三重県教育委員会ならびに志摩市教育委員会の事業に係る研究指定校からの要請を受け, 各事業に係る研修会講師ならびに研究発表会講師及び各事業に係る実践研究校ならびに研究指定校の研修講師を務めた。加えて, Ⅱ-2. に記したように, 本学教職大学院と鈴鹿市教育委員会との市大連携に係る共同研究を通して, 連携活動に参画した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

平成22年度『教職大学院認証評価自己評価書』の執筆を分担した。また, Ⅱ-2., Ⅱ-4. に記したように, 本学教職大学院と鈴鹿市教育委員会との市大連携に係る共同研究を通して, 連携活動に参画した。